

東西学術研究所第12回研究例会  
西洋文学における信仰とフィクション研究班

# 西と東の訓読・訓点 <再訪> —東西の文献に見る訓読・訓点の比較

2014年10月、東西学術研究所で開催されたコロキアム「西と東の訓読・訓点」から3年、2名の講師がその間に、新たに展開させた研究の成果を発表する。今回、ホイットマン博士は漢籍・仏典のテキストに記された語句の発音や意味を注釈した「音義」と、中世の西洋で作成されたラテン語の語彙目録の編纂過程を比較する。オニール博士は、西洋における最も古い訓点を探し当てるといった大胆な試みに挑戦する。



2017年10月19日(木)

16:20~17:50

関西大学千里山キャンパス

児島惟謙館1階 第1会議室

事前申込不要  
入場無料

プログラム 司会 外国語学部教授 和田葉子(主幹)

ジョン・ホイットマン

(コーネル大学教授、東西学術研究所在外委嘱研究員)

「訓点資料と中世欧州の注釈資料のもう一つの類似点:

訓点 → 音義 → 辞書と gloss → glossae collectae → lexicon の編纂過程」

(日本語による発表)

パトリック・オニール

(ノースカロライナ大学チャペルヒル校教授、東西学術研究所在外委嘱研究員)

“The Earliest Evidence for Construe Marks in the West:  
a preliminary investigation”

(英語による発表)